令和６年度　国立三瓶青少年交流の家教育事業

「ミクロネシア諸島自然体験交流事業」

１　趣旨

○　ミクロネシア諸島（以下「ミクロネシア」という。）の子供たちを日本に招へいし、異文化交流を通して、グローバル社会に対応した国際感覚を備えた青少年を育成する。

○　日本で文化体験し、共存することの大切さを学ぶとともに、日本とミクロネシアの子供たちが友情を育むことを目指す。

２　事業の概要

（１）期間

○令和６年６月８日（土）：【事前学習会「ホストファミリー説明会」及び「英会話教室」】

○令和６年６月23日（日）～　７月２日（火）（９泊10日）：【日本滞在全日程】

※うち、施設滞在プログラム期間は６月27日（木）～　７月１日（月）の４泊５日であり、そのうちホームステイ期間は６月29日（土）～　30日（日）の１泊２日。

○令和６年７月６日（土）：【事後学習会「お手紙を書こう」】

（２）主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構（地域プログラム担当：国立三瓶青少年交流の家）

（３）共催

大田市教育委員会

（４）協力

大田市立北三瓶小学校・中学校、NPO法人緑と水の連絡会議、出雲大社英語ガイドGoEn

（５）対象

○ミクロネシアの10～15歳までの子供24人と随行者４人　計28人

・パラオ共和国の青少年12人、随行者２人

・ミクロネシア連邦コスラエ州の青少年12人、随行者２人

○ホストファミリー12家族（60人）

３　事業の内容

（１）プログラムデザインと企画のポイント

<u>①異文化交流への関心、国際交流と国際貢献への意欲を喚起するための事前・事後学習会の設定</u>

事業２週間前にはホストファミリー向けの「事前説明会」を設定し、日本人の子供と保護者がミクロネシアの文化を学び異文化交流への関心を高められるようにした。また、英語でのコミュニケーションに対して不安を感じる家族が多いと予想し、ホストファミリーの英会話への不安軽減を図るため、事前説明会後に希望する家族向けに「英会話教室」の時間を設定した。

事業終了の1週間後にはホストファミリー体験で得た気付きや学びを振り返り、言語化することを通して、事業後も継続して国際交流をしたいという意欲や国際貢献への意識が高まることを期待して希望者向けの事後学習会「お手紙を書こう」を設定した。なお、「英会話教室」「お手紙を書こう」の実施に当たって地元大田市教育委員会に講師としてALT（外国語指導助手）の派遣を依頼することにより、専門的な視点に基づく支援体制を整えた。

②ミクロネシアの子供とホストファミリーの子供たちの前日交流会の設定

翌日からのホームステイプログラムに入る前の段階で、ホストファミリーの子供とミクロネシアの子供が仲良くなり、安心感をもってホームステイプログラムに臨めるようにしたいと考え、28 日（金）の夜にはレクリエーションゲームや同じ部屋での寝泊まりを体験する前日交流会を設定した。

③島根ならではの日本らしさを実感できる体験の機会設定

ミクロネシアの子供たちが日本らしさを実感できるような島根ならでは体験を取り入れたいと考えた。そこで、施設滞在プログラム初日には日本の伝統建築の１つである神社や日本神話について知ってほしいという思いもあり、出雲大社見学の時間を設定した。また、出雲大社英語ガイドボランティア GoEn にガイドを依頼することにより、出雲大社の概要や関係する日本神話についてミクロネシアの子供たちに英語で分かりやすく伝えられるよう配慮した。

30（日）のフェアウェルパーティーでは、近年日本遺産にも登録された島根県が誇る伝統芸能「石見神楽」を紹介したいと考え、地元大田市山口町の多根神楽団に神楽上演を依頼した。また、上演演目を初日に見学した出雲大社とも関わりの深い須佐之男命（スサノオノミコト）の八岐大蛇（ヤマタノオロチ）退治伝説を題材にした演目「大蛇」とすることにより、ミクロネシアの子供たちに日本神話への関心を引き出すとともに島根ならではの伝統芸能を通して日本らしさを味わわせたいと考えた。さらに、神楽団に依頼して神楽上演後には蛇頭や蛇胴などの衣装に触れる時間を設定することにより、石見神楽に一層の魅力を感じられるようにした。

④余裕をもたせた時間設定と活動の見通しをもたせるための逐次的な情報伝達

ミクロネシアの子供たちが慣れない日本で活動を行うため、プログラム変更が急に必要となる場合を想定し、全日程で時間に余裕がある企画を行った。また、ミクロネシアの子供たちが見通しをもち、時間を意識した行動ができるようにするため、食堂など全体で集まる時を捉え、日程や注意事項を逐次説明するようにした。この時、日程の全体像を伝えて見通しをもたせるだけではなく、直近の日程に焦点化し、一度に伝える情報を少なくすることで確実な理解につながるように配慮した。

（２）運営のポイント

①視覚的な支援の充実

出雲空港到着時の出迎え時には、紙芝居形式の提示資料を活用して日本の中で島根県や三瓶がどこに位置するのかを紹介した。また、交流活動時には、食堂や浴室の使い方などについてスライド資料を投影したり、布団の敷き方については実演して見せたりした。このような視覚的支援の充実を通して、ミクロネシアの子供たちが安心感をもって活動できるようにするとともに、不慣れな日本文化に親しむことへの挑戦意欲ができるようにしたいと考えた。

②組織的な緊急対応と事業運営

本事業用に危機管理対応方針や対応組織図を作成し、事前に職員間での共有を図ることにより、緊急時に組織的で迅速な対応が行えるように準備を整えた。また、プログラム実施時は臨機応変な対応を可能とするため、主担当、副担当に加え、企画指導専門職を中心とした職員がもう一人関わることができるようにあらかじめ勤務や受け入れ団体の指導担当の調整を行った。さらに、全職員で交流事業期間中の日程や日ごとの交流プログラムと並行して行う必要がある作業について事前確認する場を設けることにより、全所体制で対応できるように体制を整えた。特に 6 月 30 日（日）のフェアウェルパーティーについては、会場の飾りつけ等の準備は、事業担当者以外の職員で行うように計画した。

（3）ホストファミリー応募のための広報のポイント

①段階的広報

ホストファミリーの募集については、大きく2段階で実施した。一次広報は、大田市と近隣市町（出雲市、雲南市、美郷町、飯南町、川本町）の英会話教室でのチラシ配布を実施した。英会話教室に着目したのは、英会話教室に通う児童生徒とその保護者こそ、英会話実践の機会としてホームステイプログラムへの関心が高いと予想したためである。また、令和5年度にも同様の広報を検討したが、新型コロナウィルス感染症の影響で施設滞在プログラムを実施しないことになったため、今回が初の試みとなった。二次広報は、事業共催者の大田市教育委員会に協力いただいて大田市の小中学校でチラシ配布をしたり、近隣市町の小中学校でチラシ配布をしたりした。

②大田市の小中学校での直接的な情報提供

大田市の小中学校については、保護者により直接的な広報をしたいと考え、大田市教育委員会に相談した結果、年度始めに、各家庭向けのメール配信システムを利用して各校で募集対象学年の児童生徒がいる家庭にチラシデータを配布することになった。また、教育委員会に事前相談の上、いくつかの小中学校に直接交渉して4月末のPTA総会にあわせて学校訪問し、保護者向けに事業概要を保護者に直接説明する機会を得ることができた。

③音声告知や文字放送の活用

地元大田市のケーブルテレビ局には音声放送と文字放送を依頼したところ、応募締切り前日まで数週間にわたり無料で告知できることになった。また、雲南市で行政放送を利用した無料の音声告知、出雲市や飯南町のケーブルテレビ放送局で有償の文字放送などを駆使し、より多くの家庭にホストファミリー募集の情報が届くようにした。

④オンライン対応を可能とした募集事前説明会の開催

ホストファミリー募集事前説明会は、平成30年度と令和元年度のいずれも2回設定したが、5年ぶりの実施であり、多くの児童生徒の保護者に直接情報提供できる機会をより多く設定する必要があるため、3回の募集事前説明会を実施するとともに、web会議システムを活用してオンラインで参加できるようにした。また、web会議システムの録画機能を活用して当日の様子を記録したことにより、当日都合により説明会に参加できない家庭に対し、録画映像により情報提供ができる体制を整えた。

（4）活動内容

①事前学習会「ホストファミリー説明会」「英会話教室」：6月8日（土）

事前説明会及び英会話教室は、国立三瓶青少年交流の家を会場として実施した。

事前説明会は、ホストファミリー12家族32人が参加し、家族紹介の後、受入れに当たっての注意事項等の説明と質疑応答を行った。

英会話教室は、大田市教育委員会派遣のALT（外国語指導助手）4人を講師として実施し、9家族25人が参加した。日常使える英語のフレーズを知るとともに、自己紹介ゲームをしたり、お題の事物について身振り手振りも交えて相手に伝えるゲームに取り組んだりする中、英語の得意不得意にかかわらず積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を高めた。

ホストファミリー説明会の様子①

ホストファミリー説明会の様子②

英会話教室の様子①

英会話教室の様子②

英会話教室の様子③

②施設滞在プログラム：6月27日（木)）～7月1日（月）

以下、日ごとの活動のねらいと日程概要を掲載する。

【6月27日（木)】

≪ねらい≫

・出雲大社の見学を通して日本の神話（文化）を知り、日本のことを理解する。

・交流の家の過ごし方と活動場所を理解する。

≪日程概要≫

午後：移動（出雲空港→出雲大社見学→交流の家)、交流の家内の探検
夜　：ウェルカム交流会

出雲空港での説明の様子

出雲空港での昼食の様子

出雲大社見学の様子①

出雲大社見学の様子②

夕べのつどいの様子

ウェルカム交流会の様子①

ウェルカム交流会の様子②

ウェルカム交流会の様子③

【6月28日（金)】

≪ねらい≫

・日本の小中学生との交流を通して、友情を育む。

・日本特有の文化体験、給食体験を通して日本や日本の学校ことを理解する。

・ホストファミリーの子供たちとの生活を通して、友情を育む。

≪日程概要≫

午前～午後：大田市立北三瓶小学校・中学校プログラム（箏体験、給食体験、餅つき体験）、荷物の準備 夜　　：事前交流会（ホストファミリーの子供たちとの交流）

朝のつどいの様子（ラジオ体操）

学校プログラムの様子①（お出迎え）

学校プログラムの様子②（箏体験）

学校プログラムの様子③（給食体験）

学校プログラムの様子④（餅つき体験）

前日交流会の様子①

前日交流会の様子②

前日交流会の様子③(就寝準備)

【6 月 29 日（土)】

≪ねらい≫

・レクリエーション、ホームステイプログラムを通じてホストファミリーとの友情を育む。

・日本の文化や生活を体験することを通して日本への理解や親しみを深める。

≪日程概要≫

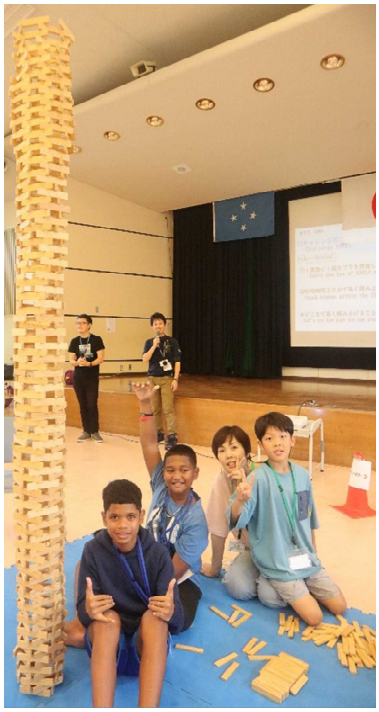
午前：ホストファミリー対面式（レクリエーション） 午後：ホームステイプログラム

ホストファミリー対面式の様子①

ホストファミリー対面式の様子②

ホストファミリー対面式の様子③

ホストファミリー対面式の様子④


ホストファミリー対面式の様子⑤

【6月30日（日）】

≪ねらい≫

・レクリエーション、ホームステイプログラムを通じてホストファミリーとの友情を育む。

・日本の文化や生活を体験することを通して日本への理解や親しみを深める。

≪日程概要≫

午前～午後：ホームステイプログラム
夜　：フェアウェルパーティー

ホームステイプログラムの様子①

ホームステイプログラムの様子②

ホームステイプログラムの様子③

ホームステイプログラムの様子④

ホームステイプログラムの様子⑤

ホームステイプログラムの様子⑥

ホームステイプログラムの様子⑦

ホームステイプログラムの様子⑧

ホームステイプログラムの様子⑨

ホームステイプログラムの様子⑩

ホームステイプログラムの様子⑪

ホームステイプログラムの様子⑫

フェアウェルパーティーの様子①

フェアウェルパーティーの様子②

フェアウェルパーティーの様子③

フェアウェルパーティーの様子④

フェアウェルパーティーの様子⑤

フェアウェルパーティーの様子⑥

フェアウェルパーティーの様子⑦（集合写真）

【7月1日（月）】

≪ねらい≫

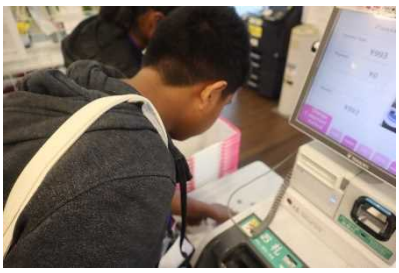
・日本の買い物体験を通して、日本の経済や文化特性への理解を深める。

≪日程概要≫

午前：買い物体験→東京へ出発

交流の家出発の見送り

買い物体験の様子①


買い物体験の様子②

出雲空港出発前の様子①

出雲空港出発前の様子②（集合写真）

出雲空港からの飛行機の離陸を見送る職員

③事後学習会：「お手紙を書こう」7月6日（土）

6月8日（土）の「英会話教室」に大田市教育委員会から派遣されたALT（外国語指導助手）のうち3人が今回も講師を担当した。当日は、10家族22人が参加した

事後学習会の様子①

事後学習会の様子②

事後学習会の様子③

事後学習会の様子④

事後学習会の様子⑤

事後学習会の様子⑥

４　日本人参加者のアンケート結果と、日本人参加者の声

（1）アンケート結果　　13（人）

	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
外国語を使ったコミュニケーション能力を向上させたいと思いましたか。	7	4	2	0
初めてやることにチャレンジしてみたいと思いましたか。	5	6	2	0
将来、社会や人のためになる仕事をしたいと思いましたか。	9	3	1	0
日本人として世界に貢献したいと思いましたか。	6	5	2	0
外国の人との交流を通して、自分の可能性を広げたいと思いましたか。	8	3	2	0
交流した灰国の人と将来もつながりを持ちたいと思いましたか。	7	3	2	1
いろいろな国に行ってみたいと思いましたか。	8	3	2	0
日本の歴史・文化を学びたいと思いましたか。	7	3	3	0

※アンケート回答対象は小学５年生～中学２年生

（2）参加者の声

〇自分の英語が通じてうれしかった。いろいろな体験を一緒にできて楽しかったです。

〇コミュニケーション能力を向上させ、海外に行き、さらに学んで、将来につなげたいです。

〇ホームステイを受け入れて、交流できたと思います。

〇またホストファミリーをしたいと思いました。

〇はじめて国際交流をしたけど、たくさんの外国の方と関わることができてとても楽しかったです。でも、もっと英語を話せるようになりたいと思ったので、英語の勉強をがんばりたいです。

〇英語は話せなかったけど、一緒に何かをするのは楽しかったです。

〇運動をしたり、一緒にご飯を食べたりするのが楽しかったです。

〇フェアウェルパーティーでの、ミクロネシアの皆の踊りがかっこよかったです。

〇海外の方と協力したり、交流したりして、どのような文化なのかも分かったので、もっとこういうのに参加したいです。

〇二人とも、とても明るくてすてきな子たちでした。お別れするのがさみしくなりましたが、連絡先を交換したので、これからもつながっていられるかなと思います。

５　成果と課題

≪成果≫

<u>①異文化交流への興味・関心の深化につながったこと</u>

ホストファミリーのうち 2 家族は、今回の応募をきっかけとしてミクロネシア派遣プログラムに申し込んだところ、二人の子供の派遣が決定した。また、ほかにも派遣プログラムに関心をもった家庭が多くあった。さらに、「今度は家族でミクロネシア諸島に行けるように貯金を始めました。」と語るホストファミリーの保護者があり、日本人参加者アンケートに「海外の方と協力したり交流したりして、どのような文化なのかも分かったので、もっとこういうのに参加したいです。」などの記載があるように、今回の交流を通じて、実際にミクロネシアへ行きたいという気持ち、異文化体験への興味・関心の深化につなげることができた。

②日本とミクロネシアの子供たちの友情を育めたこと

七夕の時期だったため、フェアウェルパーティーのとき、自由に短冊に願いを書けるようにしたところ、ミクロネシアの子供たちから、「この交流がこれからも続きますように」などの記述があった。また、フェアウェルパーティー後、別れを惜しみ、涙を流してハグをする姿が見られた。さらに、日本人参加者アンケートに「連絡先を交換したので、これからもつながっていられるかなと思います。」などの記述があるように、今回の交流を通して、日本とミクロネシアの子供たちの友情を育むことができた。

≪課題≫

①早めの時期からの計画的なホストファミリー募集、学校プログラム連携依頼

今回のホストファミリー募集広報の開始、大田市教育委員会等への各協力依頼が 3 月末からになった。当初、ホストファミリーになかなか応募がなかったため、焦りが募るばかりであった。今後、本事業を実施するときは、遅くとも年明けにはホストファミリー募集の広報を開始するとともに、教育委員会とも連携し、早めに学校プログラム協力先を決める必要がある。

②全所をあげた組織的な教育事業対応

当所は、土曜日や日曜日の出勤者が少ない現状である。また、研修支援の充実の観点から、教育事業と並行して研修の受入れを行っている。今後職員数が減少することが見込まれることを踏まえると、今の勤務体制で土日に大きな教育事業を実施することは持続可能性が低い。教育事業の実施期間に研修の受入れをしないこと、変則的な勤務時間を活用することなどを検討し、全所をあげて組織的に教育事業対応できる環境を整備していく必要がある。

（担当：企画指導専門職　向原　将平）